

一般社団法人 日本応用地質学会

令和5年度・2023 年度

第6回国際委員会・IAEG JAPAN 運営委員会 議事録

日 時 : 2024 年 1 月 12 日 (金) 15:00~17:30

場 所 : 国際航業株式会社 本社会議室、Zoom を用いた Web 会議 (併用)

出席者 : 長谷川委員長、菊地副委員長、野々村委員、濱田委員、水野委員、山崎委員、山田幹事

委任状提出: 加地委員、越谷委員、昆委員、徳楠委員、百嶋委員、百瀬委員、安田委員

陪席: 茶石顧問

議事:

1. 前回議事録(案)の確認

- ・前回(2023 年 11 月)に開催した委員会の議事録(案)を了承した。
- ・来年度の IAEG 年会費の改訂案に関連して、学会規則の改訂と国際会員申込書の変更を進める。

2. 理事会報告

- ・令和 5 年度第 8 回理事会の内容について報告がなされた。

3. IAEG JAPAN 運営委員会活動について

(1) IAEG 事務連絡

1) IAEG Newsletter No.3 & 4

- ・2023 No.3 & 4 の発行内容について説明がなされた。
- ・2024 No.1 の投稿へ向けて、引き続き素材の収集準備を進める。

2) R6 能登半島地震の速報記事の投稿について

- ・当該記事について、IAEG 本部への投稿記事(速報)を作成する(投稿目標は2月上旬頃)。
- ・内容については、過去の作成記事を参考にしつつ、関係機関から公開済みの情報を引用して取りまとめる。
まずは各委員で収集した資料等を共有ドライブに格納した上で、編集用の原稿データを全員で適宜更新していく形とする。

3) 他 National Group との交流について①KSEG 春季研究発表会(2024 年 4 月 5・6 日)における韓国・日本・台湾セッションの開催について

- ・この企画について、KSEG 春季研究発表会までの時間があまりないこと、試しに実施する感じであることから、今回は KSEG 側とのパイプを強めることを第一の目的として、参加者は国際委員 + α 程度で調整を進める。
- ・できれば発表は若手が行い、年長者は同行&発表サポートの形が望ましい。
- ・来年以降は3か国での持ち回り開催となる可能性が高い。その場合、日本開催は 2025 年 6 月のシンポジウムでの開催を想定し、発表者は各研究部会(例:災害地質、応用地形、土质地質など)で対応してもらおう形としたい。

②英語セッションの開催(2024 年 10 月、研究発表会@香川)について

- ・「ジオハザード、オープンソースデータの整備・活用状況」をテーマとして、2か年イベントとして開催する。1年目は海外からの招待講演者の発表を、2年目は国内技術者の発表を、それぞれメインとする。まずは開催シナリオ案を作成する。

③国際ワークショップ (KSEG との共催) について

(全般)

- ・開催方法: 複数の他委員会から共催の提案が来ているが、あくまで単独開催とする方向で企画を進める。(例: AM 座学、PM 現地巡検 & 懇親会)
- ・開催時期 & 会場: 2024 年 8 月頃に香川大学内の会議室を借りて開催、巡検先は以前 KSEG 側が訪問を希望していた北淡震災記念公園(野島断層保存館)、と想定する。KSEG 新会長には、1 月中に改めて開催協力を打診する。
- ・開催趣旨: 国内の若手会員に海外への関心を持ってもらうとともに、海外技術者とのパイプを築いてもらうことを主目的とする。開催に関する趣意書を作成する。
- ・参加者に目的意識をはっきりと持ってもらうためにも、事前アンケートの実施も検討する。
- ・この企画以外にも、例えば若手会員を対象とした技術英語レクチャーを開催して、そこへの参加をきっかけとして若手会員が主体的に国際活動を進められるように国際委員会がサポートする、といった形もできないか検討してみる。

(2) その他

1) 学会誌 Bulletin 紹介

- ・次号(2 月号)には、担当委員作成の記事が掲載予定である。次々号(4 月号)の掲載に向けて、次の担当に改めて準備状況を確認する。

2) 総会用資料(R5 活動報告)

- ・資料素案について説明がなされた。内容について委員会内で確認した上で、必要に応じて適宜更新して完成させる。

3) 会誌の海外送付について

- ・事務局長からの指摘内容について説明がなされた。次号発送時に、相手方に対してこちらの連絡先を示したメモを同封し、今後の発送継続の必要性について相談する。

4) 海外シンポジウム

- ・現在、学会 HP に掲載中の情報について説明がなされた。適宜内容を最新情報に更新した上で、JSEG_HP のトップページ及び学会 NL での周知を手配する。

4. ホームページ関係

(1) JSEG 英語版 HP

- ・適宜、揭示情報の更新を行う。
- ・直近での新たな試みとして、国内災害情報の速報的な情報提供(SNS)や写真集コーナー新設(HP)(災害調査団 & 海外調査団(ネパールと韓国はある?))などの対応準備を進める。

(2) JSEG 日本語版 HP

- ・適宜、揭示情報の更新を行う。

(3) 学会 Facebook

- ・14th ARC 参加関連の記事を投稿する。

5. 海外情報の共有

- ・「海外アラカルト」講演(海外事業の紹介、留学生や海外技術者から見た国内事情など)について、次回以降の委員会(3 月 or 5 月)に開催予定とし、まずは各委員にて候補者を選定する。

6. その他

・次回委員会(令和5年度_第7回)は、令和6年3月に開催する方向で調整する。

以 上